

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」のグローイングアップを実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「好き」になる授業づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田小・西河原小・太田中公開授業</li> <li>・太田中教員が小学校へ出前授業</li> </ul> </li> <li>○「書く」活動を全教科で                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識克服の取組み</li> <li>・指導法共同研究</li> </ul> </li> <li>○「体力づくり」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業の改善</li> <li>・中学校区全体でマラソン</li> </ul> </li> <li>○事務の共同実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「好き」になる授業づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田小・西河原小・太田中公開授業</li> <li>・太田中教員が小学校へ出前授業</li> <li>・学びのシンポジウム実施</li> <li>・小小授業連携</li> </ul> </li> <li>○「書く」活動を全教科で                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識克服の取組み</li> <li>・指導法共同研究</li> </ul> </li> <li>○「体力づくり」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業の改善</li> <li>・中学校区全体でマラソン</li> </ul> </li> <li>○事務の共同実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グローイングアッププラン3年間の総括・検証</li> <li>○「好き」になる授業づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田小・西河原小・太田中公開授業</li> <li>・小小授業連携</li> </ul> </li> <li>○「書く」活動を全教科で                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識克服の取組み</li> <li>・指導法共同研究</li> </ul> </li> <li>○他教科・校種間連携                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。</li> </ul> </li> <li>○「体力づくり」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業の改善</li> <li>・中学校区全体でマラソン</li> </ul> </li> <li>○事務の共同実施</li> </ul>
確かな学力の育成	表現することを楽しむ子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心できる授業スタイル                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールスタンダードに基づいた、どの学級でも同じ授業スタイル。</li> <li>・「めあて」を明確にした授業。</li> <li>・「ふりかえり」を行い、学習内容の確実な定着につなげる。</li> </ul> </li> <li>○書く力（記述力）の向上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体での「書く」取組。</li> <li>・語彙を増やす取組みの実施。</li> <li>・表現しにくい児童への支援</li> </ul> </li> <li>○「国語が好き」になる授業改革                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造。</li> <li>・読書活動の活性化の継続</li> </ul> </li> <li>○「算数が好き」になる授業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の授業の継続。</li> <li>・『ふりかえり3つの観点』の活用。</li> </ul> </li> <li>○学力低位層・エンパワー層を減らす。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・補充学習の実施。</li> <li>・習熟を図るための取組み、計算タイムの実施。</li> </ul> </li> <li>○家庭学習の定着                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に一度の家庭学習週間の実施。</li> </ul> </li> </ul>	3か年計画の中間総括	3か年計画の取組みの総括

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。</li> <li>・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。</li> <li>・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進</li> <li>・ペア・グループ活動を通じた言語活動への充実</li> </ul>		
豊かな人間性を育む	支えあうことのできる子どもの育成 一人ひとりの違いを認め合い、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研の実施。</li> <li>・子どもたちをつなげるワークの実施。</li> <li>・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。</li> <li>・人との出会いをつくる。</li> <li>・道徳の授業の充実。</li> </ul>	3か年計画の中間総括	3か年計画の取組みの総括
健康・体力の増進	体を動かすこと大好き！な子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動習慣を身につける（マラソン・なわとび）</li> <li>・休み時間の外遊びの励行</li> <li>・休み時間の体育館開放</li> <li>○「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造</li> <li>・公開授業の実施</li> <li>・保健体育部によるカリキュラムの整理</li> <li>・学年授業研究の実施</li> <li>・茨木っ子運動の実施</li> <li>・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備</li> <li>・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用</li> </ul>	3か年計画の中間総括	3か年計画の取り組みの総括
支援教育の充実				

# 2

## 今年度の結果と取組みについて

### (1) 全国学力・学習状況調査

#### ○●国語●○

国語A	国語B
<p>(領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>② 書くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>③ 読むこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>④ 言語事項 概ね良好な結果であった。</p>	<p>(領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>② 書くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>③ 読むこと 概ね良好な結果であった。</p>
<p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった。</p> <p>② 短答式 概ね良好な結果であった。</p>	<p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった。</p> <p>② 短答式 概ね良好な結果であった。</p> <p>③ 記述式 概ね良好な結果であった。</p>
<p>(無解答率)</p> <p>概ね良好な結果であった。</p>	<p>(無解答率)</p>
<p>(その他)</p> <p>○漢字の読み取り「指示」「期限」が、最も正答率が高く、漢字の書き取り「対象」が、最も正答率が低かった。</p> <p>○俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題が、全国よりもポイントが低かった。</p>	<p>(その他)</p> <p>○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えるような設問の正答率が一番高かった。</p> <p>○目的や意図に応じ、引用して書く設問の正答率が一番低かった。</p> <p>○物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる設問の正答率が全国平均よりも大きく差が開いた。</p>

#### 分析

- 「国語の勉強が好き」という項目について、半数以上が肯定的な回答をし、全国を上回る結果となった。
- 「読書好き」という項目について、昨年度に比べて肯定的な回答をする児童が増えた。今後も朝の読書タイムを継続し、幅広く読書ができるように、読書活動を推進していく必要がある。
- 国語 A
  - ・俳句の情景を捉える問題では、全国に比べて正答率が低く、言葉の意味を理解することに課題が見られる。辞書などを活用して、言葉の意味を知る・語彙を増やす活動を推進していく必要がある。
- 国語 B
  - ・記述式での問題は正答率が低い傾向にあるが、無解答率は低く、書こうとする意欲がある児童が多く見られた。学習の振り返りを毎回行ってきたことで、書くことに対し、前向きに向き合っていると感じる。しかし、整理をして書くことに苦手意識が見られるため、授業で意識していく必要がある。
  - ・登場人物の心情や場面についての描写を捉える問題は全国に比べて正答率が高かった。

# 〇●算数●〇

## 算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算  
概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定  
概ね良好な結果であった。
- ③ 図形  
概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係  
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった。
- ② 短答式  
概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- 「正五角形の構成について」を問う設問の正答率が、全国・大阪平均より大幅に上回った。
- 「数量や図形についての知識・理解」の問題では無解答率0が続いていた。
- 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」設問の正答率が最も低かった。また、全国平均よりも下回った。

## 算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算  
概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定  
概ね良好な結果であった。
- ③ 図形  
概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係  
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった。
- ② 短答式  
概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式  
概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- 「示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現することができる」設問の正答率が最も高かった。
- どの設問も全国・大阪の平均よりも無解答率が低い。
- 「身近なものに置き換えた基準値と割合をもとに比較量を判断し、その理由を記述する」設問の正答率が最も低い。

## 分析

### ○算数A

- ・ほとんどの区分で、全国・大阪平均よりも上回っており、概ね良好な結果であった。計算タイムや補充学習などの習熟を図る時間の確保や、学校全体で系統立てた授業改革の実践をしてきた成果が、今回の良好な結果に表れている。また、「算数の勉強が好き」のポイントが、全国・大阪平均よりも大きく上回り、年々上昇していることから、わからない子どもたちに視点をあててきた授業づくりの成果と考える。みんながわかる授業を目指し、今後も研究・実践を積み重ねていきたい。

### ○算数B

- ・ほとんどの区分で、全国・大阪平均よりも上回っており、概ね良好な結果であった。「記述式」の問題形式に課題がみられる。無解答率は全国平均よりも低く、問題を解こうとする意欲は強いので、問題の中から大事な情報を選択し、その上で、自分の考えを表現する力を育てる取組みを今後も継続して行っていく必要がある。

## 〇●経年比較●〇

### 全体的な傾向についての分析

- ・正答率については全体的に、概ね良好な結果である。
- ・算数Aが右肩上がりに上昇している。
- ・無解答率は、年々減少しており、問題を解こうとする意欲が上がってきていることがわかる。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー（EP）層についての分析

- ・年度により変化が見られるが、学力高位層の割合が低くなり、学力低位層の割合が高くなっている。算数Aについては学力高位層が増え、低位層が大きく減っている。
- ・学力低位層や、EP層を減らしていくような取組みが必要である。

## 〇●取組み●〇

### 学力向上に関する取組み

#### 〇「国語が好き」になる授業改革

- ①「楽しい」「わかる」「やってみたい!」「教科や学習が好き」と子どもたちが生き生きと学ぶ姿を中心とした授業づくり、子どもたちが主体的に学べる授業づくりの研究の継続とさらなる追求。言語活動の充実。
- ②国語科での研究授業を実施。
- ③「読書好き」を増やす取組み  
読書活動の活性化の継続。全校一斉の週一回の読書タイム、委員会活動、読書貯金、読書マラソン、読書週間の取組みの実施。感想文指導、図書環境整備。

#### 〇「算数が好き」になる授業

- ① 問題解決型の授業を今後も継続し、協同的な学びあいを重視した授業内容や、子どもたちの学びを確認する『ふりかえり3つの観点』を活用していく。

#### 〇書く力（記述力）の向上にむけての取組み

- ①教科・時間を問わず「書く活動」の充実  
すべての教科で「書く」ことを意識した授業改善を図る。「めあて」「ふりかえり」の徹底。「書く」に対する苦手意識や、抵抗感をなくしていくための工夫を行う。また、自分の考えを書く際に「理由を書く」「まとめる」「説明する」等の活動の機会を充実させ活用力を高める授業づくりを目指す。
- ②書くことへの価値付け・フィードバックの場の保障
- ③学校全体でスタンダードの作成。（語彙を増やす取組み・辞書の使い方など）

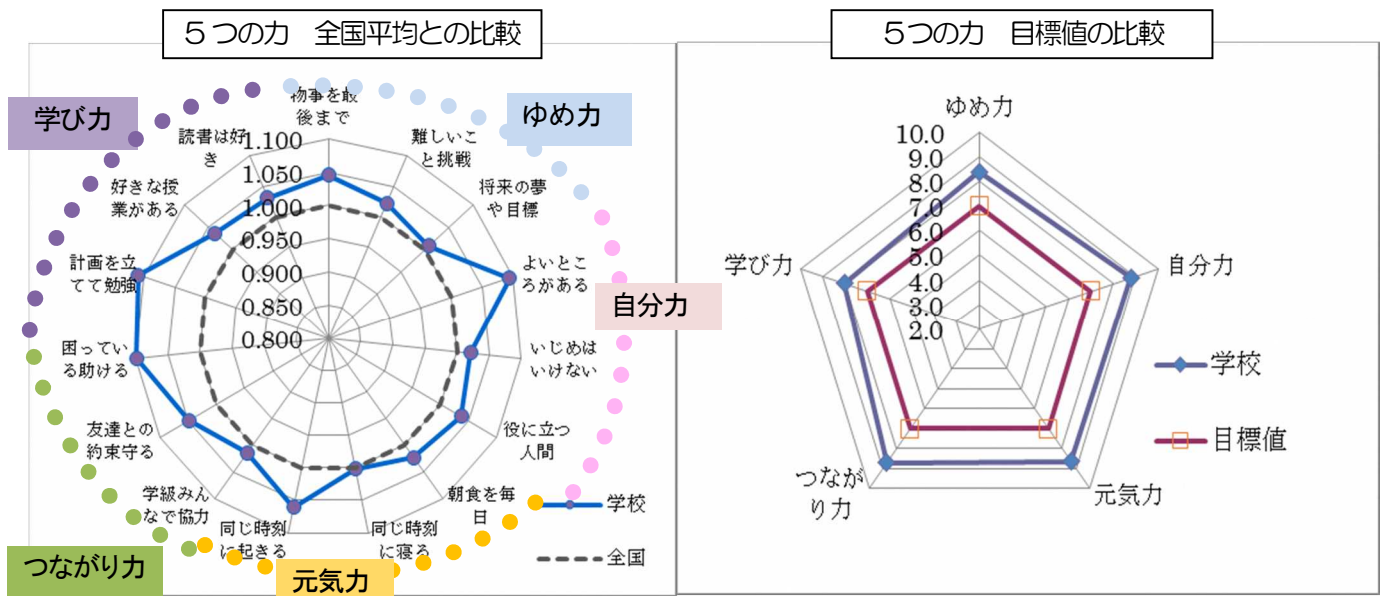
#### 〇学力低位層・エンパワー層を減らす取組み

- ①計算タイムの取組みによる基礎基本の習熟の継続。  
校内全教師による入り込み指導の体制が確立、実施中。昨年度作成した計算タイムファイルの活用を全学年で実施継続。
- ②補充学習の充実  
昨年の課題を受け、学習に課題のある児童の支援の一つとして高学年を中心とした授業時間外での補充学習の校内体制を確立させ、担外、学習支援者を中心に実施継続。
- ③ペア学習・グループ学習での学び合い

#### 〇家庭学習の定着・充実に向けた取組み

- ①家庭学習の定着・充実を図るため、各学期に一回「家庭学習週間」の取組みの実施・保護者への報告。
- ②ゲームやテレビの視聴時間を減らし生活リズムを整えていくための家庭への働きかけ・発信の継続。
- ③予習、復習、自主的・計画的な学習の充実に向けた学校全体の取組みの検討。

# ○●子どもたちに育みたい力●○



## 分析

○5つの力のすべての項目が、目標値を上回る結果となった。

### ○学び力

- ・例年課題であった、「読書は好き」のポイントが目標値よりも上回った。
- ・「学校が楽しい」と思う児童が年々、増えてきている。

### ○つながり力

- ・思いやりの気持ちが強く、相手の立場になって考えられる児童が多い。

### ○元気力

- ・学校でのきまりや、生活習慣が身についている子どもたちが多い。
- ・「同じ時刻にねる」が目標値とほぼ同じである。

### ○自分力

- ・「自分には良いところがあると思う」と回答する児童が多く、自己肯定感が高い。

### ○ゆめ力

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問が比較的課題が見られた。
- ・「難しいことに挑戦する」ことについては、目標値は上回っているが、児童の自信のなさが見られる。

## 取組み

### ○学び力

- ・すべての児童が「わかった」「できた」といえる授業を追求していく。
- ・問題解決型の授業をどの教科でも実施。たくさんの児童が活躍できる場面をつくり、「好き」を増やす。
- ・授業の「めあて」を大切に、必ず「ふりかえり」を行う。
- ・目的意識をもって最後までやり抜く力を育む。

### ○つながり力

- ・成長しあえる集団づくりを目指し、どの児童も学級が安心できる場になるように引き続き取り組む。
- ・外国語の授業の研究を推進し、校内の研究授業を行う。外国語をコミュニケーションのツールとして活用できるようにする。

### ○元気力

- ・見通しをもって行動できるように、教室環境を整備する。

### ○自分力

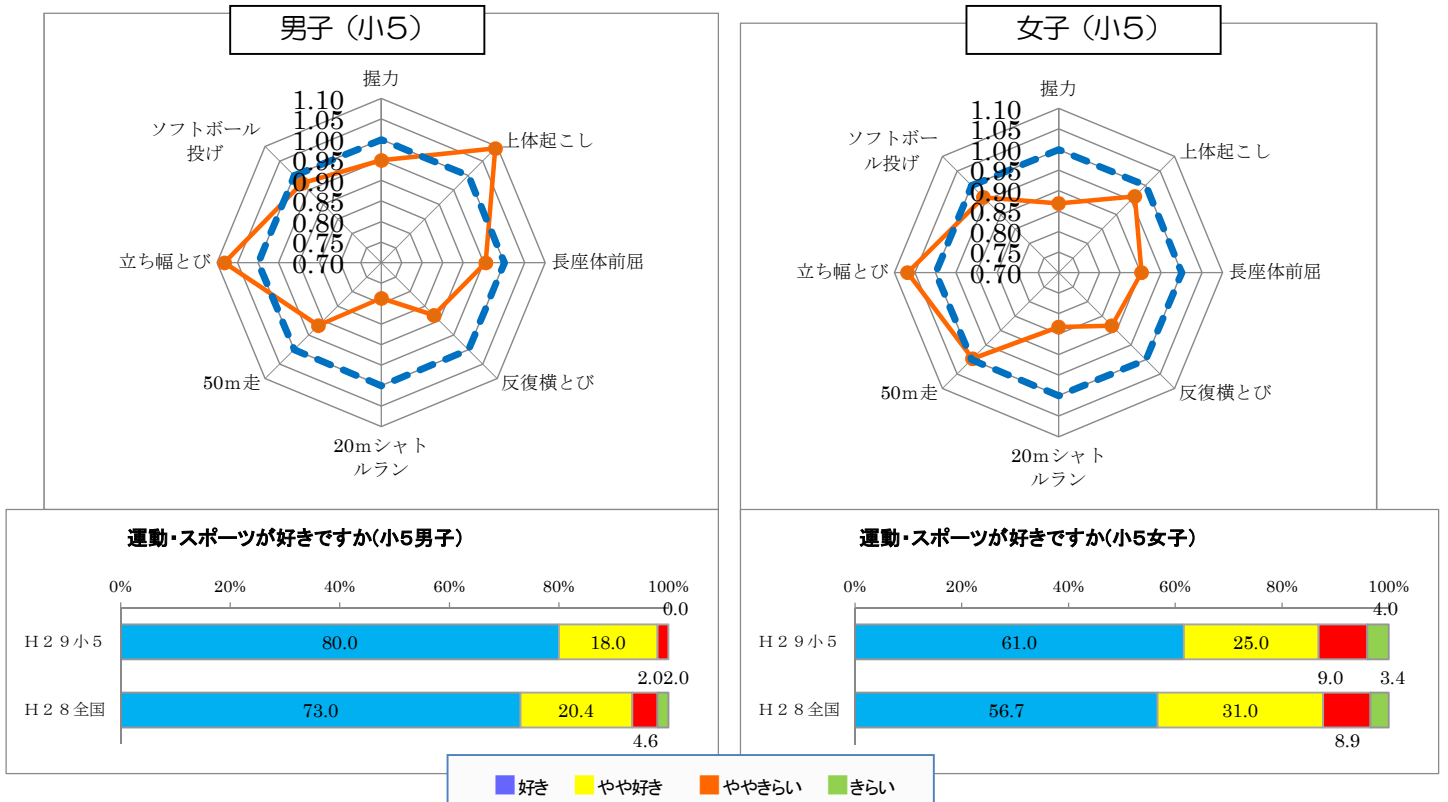
- ・子どもたちが主体的に活動できる場を増やす。学級活動、係活動、児童会、委員会といった特別活動を活性化させ、全校の発信や発表の機会をつくり、活躍の場を増やす。

### ○ゆめ力

- ・出会いの場を設定し、将来を見直すことのできる「キャリア教育」の充実。

## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### 〇●体力●〇



### 分析

- 概ね良好な結果・・・上体起こし、立ち幅跳び、ソフトボール投げ
- 課題のある結果・・・反復横とび、20mシャトルラン
- 以上の結果より、本校としては引き続き、俊敏性、持久力に力を入れていく必要があると思われる。
- 運動・スポーツが好きですかというアンケート結果より
- 男子・・・98パーセントの児童が肯定的な回答をしており、きらいと回答した児童は0人である。
- 女子・・・肯定的な回答が、ほぼ全国平均と変わらない。
- 以上の結果より、「運動好き・体育好き」が比較的多いということが読み取れる。
- これは、校内研修などによる授業改善や子どもたちが主体的に学べる授業内容の結果であると思われる。
- この結果を持続するため、引き続き、すべての児童が「またやりたい」「楽しかった」と思えるような授業を考えていきたい。

### 取組み

- (1) 運動習慣につなげる取り組み
  - ①マラソン期間の設定…マラソンカードの配布。  
4・5・6年生は西河原小との合同マラソン大会(案)。
  - ②なわとび…年間取り組めるよう、ジャンピングボードを設置。なわとびカードの配布。
  - ③休み時間の体育館使用 外遊びの提案・励行
- (2) 授業改善「楽しい(またやりたい)」「汗をかく(運動量の確保)」「考える」授業の追求
  - ①校内研修会
    - ・学期に1度のペースで、研修会を行う。(例:鉄棒、水泳、陸上運動の指導など)
  - ②環境づくり「マット・とび箱」
    - ・校内で行う期間を決め、使いやすいように外に出しておく。
    - ・体育館内に掲示物を貼ったり、タブレットを使ったり、動きの確認ができるようにする。
  - ③学習カードや副読本の活用
    - 子どもたちが自分のめあてを設定し、それに向けて練習方法を工夫する授業を追求する。
    - 評価にも活用する。
  - ④茨木っ子運動の実施
    - 毎回の体育の時間に実施。体幹を鍛え、体のコンビネーションを整える。
  - ⑤校内体育部によるモデル授業
    - 中学年のとび箱の授業で系統性と体力向上を考えた授業を行う。